学校番号	103

令和８年度　情報科

教科	情報	科目	情報Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「新編　情報Ⅰ」　（東京書籍）						
副教材等	新編　情報Ⅰ　資料ノート　（東京書籍）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・コンピュータ実習を通じて、将来に向けて実践的な活用方法を取得し、併せて、コンピュータや情報ネットワークについて学び、創意工夫する力をつけましょう。
・　コンピュータ実習の内容に絡めて、教科書の内容理解を深めますので、極めて実践的な学習となるので、事前予習は、不可欠です。また、通常の教科とは異なり、1単元、終われば、学習の終了ではなく、全てが、複雑に、絡み合っていますので、反復学習も、不可欠です。
・　他の教科科目の様に、単元毎の到達度を確認するための定期考査を実施します。また、基礎知識があっても、コンピュータを使いこなせなければ、全く、意味はありませんので、授業時間の課題作成を評価します。つまり、課題作成を順調に進める事が出来れば、それに伴うある程度の知識は備わっていると言う事にもなります。但し、教科ですので、基礎知識、実技能力の一方だけ出来れば高評価になると言う訳では有りません。知技両道、どちらも、しっかり出来て高評価に繋がりますので、毎時間、緊張感を持って、授業に臨んで下さい。
・コンピュータ操作で、最も重要な事は、ｽﾎﾟｰﾂ同様、集中力です。集中力に欠ける人は、必然的に、評価も下がります。
・細かな学習の指示等は、Classroom で行いますので、毎日、新着メッセージがないか、確認して下さい。

2　学習の到達目標

・情報社会に、対応できる能力と態度を育成します。
・情報に関する科学的な見方や考え方を身に付け、社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や影響を理解します。
・情報や情報技術を活用するための知識と技能を身に付けます。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	1章	○情報で問題を解決する情報とメディアの特性・問題解決の流れ・発想法・情報モラル・個人情報の流出・傷つかない傷つけないために・知的財産権・情報技術の発展・情報化と私たちの生活の変化・よりよい情報社会へ	a: それぞれの内容を理解できる。情報に関する法規や制度があることを理解できる。 b: 情報モラルに配慮して情報を発信することができる。SNS 等で加害者や被害者にならないための対応が判断できる。 c: 情報技術の発展の理解と活用粘り強く、多様な意見をまとめようとしている。	定期考査 課題 観察等	定期考査 課題 観察等	課題 観察等
	表計算ソフトウェア	表計算ソフトウェアの基本操作と情報の活用方法を学ぶ	a: 適切な計算式を入力して表を作成できる b: 関数を使いこなすことができる c: 積極的に課題に取り組んでいる	実技テスト 課題 観察等	実技テスト 課題 観察等	課題 観察等

2学期	2章	○情報を伝える コミュニケーション手段の変化・ネットコミュニケーションの特徴・デジタルの世界へ・数値と文字のデジタル表現・音と画像のデジタル表現・色と動画のデジタル表現・目的に応じたデジタル化・情報デザイン・ユニバーサルデザイン・情報デザインの流れ	a:それぞれの仕組みが理解できる。メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴を、その変遷も踏まえて理解できる。 b: デジタル情報とアナログ情報のメリットとデメリットを考えることができる。想定したユーザーの考えや行動を分析できる。 c: 情報技術の発展の理解と活用粘り強く、多様な意見をまとめようとしている。	定期考査 課題 観察等	定期考査 課題 観察等	課題 観察等
	4章	○データを活用する ネットワークとインターネット・インターネットの仕組み・サーバとクライアント・インターネット上のサービス・情報セキュリティ・データの活用とデータベース・さまざまなデータモデル・データの形式・データ分析の流れ・2 つの事柄の関係	a: インターネットとはどのようなものか、理解できる。Web ページを閲覧する仕組みを理解できる。データベースの利点を理解できる。問題解決におけるデータ分析の位置づけを理解できる。 b: ・ネットワークのトラブルが起こった際に対応を判断できる。あるデータがどの尺度に当たるか判断できる相関係数の判断ができる。 c: 情報技術の発展の理解と活用粘り強く、多様な意見をまとめようとしている。	定期考査 課題 観察等	定期考査 課題 観察等	課題 観察等
3学期	3章	○コンピュータを利用する コンピュータとは何か・ソフトウェアの仕組み・演算の仕組みとコンピュータの限界・アルゴリズムの表現・プログラムの基本構造・プログラミングの工夫・発展的なプログラム・モデル化とシミュレーション・シミュレーションの活用	a: コンピュータの基本構成を理解できる。基本ソフトウェアと応用ソフトウェアの役割を理解できる。CPU でのプログラムの実行の仕組みを理解できる。コンピュータの演算の方法とその限界を理解できる。 b: リストや配列をプログラムで使用できる。モデル化の方法や、モデルの適切性を判断できる。 c: 粘り強く、プログラムを作ろうとしている。	定期考査 課題 観察等	定期考査 課題 観察等	課題 観察等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度